

大学生部門

練習曲の解釈について：

技術的な面ばかりに目を向けた演奏が多く、曲の性格、アーティキュレーション、ペダルの使い方、またその曲の雰囲気を生み出す音質の多様さ、音色、強弱の変化など、ショパンの楽譜に書かれている音楽的な面が忘れがちであった。ショパンの練習曲はいわゆる「練習のための曲」ではなくピアノのための短い詩である。これらの作品には、演奏者の想像力を自覚させることで教育的な目的がこめられている。

大きな形式の曲では、演奏者の主な仕事はロマン派的な物語を語ること、つまり作品に内在する感情的な緊張感を論理的に展開することと、クライマックスに向けて方向性を示すことが必要である。

作品の中の異なったセクションにおけるテンポのバランスの問題：

例として、スケルツォ第3番 嬰ハ短調 Op.39 の冒頭部分をあげたい。この箇所は、ショパンが記したテンポ (Presto con fuoco) よりも何倍も遅いテンポで奏され、また演奏者は21小節目以降のテンポ表示しか注意を払っていないことが多く見受けられる。同様に、幻想曲 Op.49 でも若いピアニストの多くはアラ・ブレーヴェ (alla breve) というテンポ記号を無視しており、その結果行進曲の部分のテンポが非常に遅くなり、間違った解釈を引き起こしている。

ダンパー・ペダルについてもソフトペダルについても、ショパンの記したペダル記号にもっと注意を払うこと。時に、演奏者の左足が、ソフトペダルの下に置かれていることすらあった！それではソフトペダルを使いたくても使えないだろう。

最後に、ショパンの意図をより深く理解するために、近年邦訳も出版された『ショパン全書簡（関口時正訳）』を読むことを強くお勧めする。

今回は大学生の若々しい演奏に接して鬱々としていた私の気持ちが久しぶりに高揚しました。やはり音楽の力は素晴らしいです。特にショパンの音楽の力は。動画審査にもかかわらずこのように多くの参加者をお迎えできたことは大きな喜びです。コロナ禍の中で皆さんも様々な困難を抱えておられることと思いますが演奏からは心配していたネガティブな音楽的因素は何一つ感じられませんでした。例年同様、いえ例年以上にショパンと真剣に向き合い研鑽された課程がしっかりと伝わりました。問題点としては動画審査の持つ制約についてです。当然音質を含めてリアルな演奏に比べ全てにおいて皆さんの考えておられる意図がこちらに伝わりにくい状況にあります。ですので、リアルな演奏の時以上にはっきりと自分の設計した音楽、自分の追求した音色、つまり自分の描いているショパン像を明瞭に表現していただきたいのです。そしてそのためにも動画の音質の部分にもっと注意を払って頂きたいです。皆さんのが今回経験した様々な困難をきっかけに演奏と同じくらいの響きを含めたデジタルスキルを身につけ新しい時代を乗り切って下さることを心から願っております。

オンライン審査のために、録音の良い悪いが採点に影響をおよぼしがちになりますが、録音状態が非常に劣悪であり、それが客観的な判断をさまたげているケースが散見されたことが特に惜しまれました。一方、レヴェルは昨年より少し上昇していると考えられ、特に傑出した演奏を5、6人程度見出せたことは収穫でした。今後も参加者たちが根気よくがんばってくれるように祈っております。

今回は、YouTube 限定公開審査ということで、細部にわたって参加者が弾き込みとこだわりを持って演奏に取り組んだ後がみられた。自分の音をよく聞き、またその音がどのように動画に再現されているかを、繰り返し確認したことがわかる小さなミスが少ない演奏であった。また、音楽に対する愛や情熱を持ち続けていることがわかる音に込める迫力のようなものを感じ、コロナ禍にあっても負けない若者の情熱に嬉しく思った。

強弱の力、フレーズの大きさ、音色の変化、お話しがわかる演奏（問い合わせなど）がある人の演奏を聴くと嬉しい思いでした。本人は良く弾いていると思うのですが、部屋の状況が悪い時や、ピアノが響かずスカスカに聞こえる方は残念で、ホールで同じ条件であればどうだったのかなというのがありました。

皆さん粒揃いで、難しいエチュードも達者に弾きこなしていました。一方で、きちんと弾く事が1番の目的のようになってしまっている方も見受けられました。以前から良く日本人は機械的な演奏をすると言わされてきましたが、例えば16分音符が4つ並んでいたら、その全てを均等に弾きたいと思っているのでは？という方が少なからずいらっしゃる様に感じました。音には必ず方向性があり、アクセントの有り無し、ハーモニーの強弱、各声部のバランス、色彩感等、各々の曲、部分に応じて多彩さが必要です。それらを頭で組み立てて、その上で音楽的に演奏できるようにして頂きたい、と思いました。

- ①動画を撮るためか、守りに入ったような演奏が多いように感じました。
- ②個性を強調するのは結構ですが、ショパンの場合は、調和のとれた中庸さが大切です。エキセントリックな表現は避けましょう。
- ③コロナ禍で音楽家にとって大変辛い一年となりましたが、この経験を糧にさらに内面を磨き、成熟したショパンの演奏を目指してください。